

平成 21 年度特別推薦入試（第二部商経学科）解答例

問 1. (30 点)

【採点のポイント】

- ・ 著者は「働くとは何か?」という質問に対して、他人や社会のためといった教科書的な答えや「自己実現」といった答えを求めているのではないことを理解していること。
- ・ 「働くこと」について、もっと原点に戻って考えるべきと著者が考えているのを理解していること。
- ・ 著者にとって「働くこと」とは「自分が生きているから」というような自然なことであるのを理解していること。
- ・ 一定の文章量で記述できていること。

【解答例】

著者にとって「働くこと」とは、「お金を稼ぐこと」「人の役に立つこと」「社会人の義務」といった教科書的発想のものではなく、「自己実現のため」といった生涯にわたって追求すべきものでもない。働くことは「自分が生きているから」と言えるような、もっと自然なことで、原点に戻って考えると「働くことは、朝の決まった時刻に起きること」とまず定義でき、そこから次の具体的な働き方を考えるべきだと考えている。(194 字)

問 2. (70 点)

【採点のポイント】

- ・ 「働くこと」について、自分の主張を展開できていること。
- ・ 社会的現象に対する幅広い知識を持っていること。
(例えば、ワーキングプア、フリーター問題、働き過ぎや過労によるうつ・ノイローゼや自殺、年功序列や成果主義に基づく賃金体系など)
- ・ 抽象的な表現だけではなく、具体的事例を示していること。
- ・ 一定の文章量で記述できていること。

【解答例】

「過労死」という日本語が世界でも通用するほど日本人の長時間労働は有名だが、近年では過労や職場のいじめなどによる精神疾患や、うつによる自殺者の数も増えているという。職場の人間関係そのものがストレスで、まさに「働くこと」が苦痛であり、「生きる」ことそのものが脅かされているともいえる。また金融危機以降の深刻な雇用不安の中で、「派遣切り」など「働くこと」が「生きること」そのものだと実感させられる現実もある。

しかし、その一方で、いくら働いても生活できるだけの賃金を得られないワーキング・プアと呼ばれる人たちや職そのものを失った若者たちが、「生きさせろ」と失業対策を求めるデモをしたり、ホームレスに陥った人たちの生活保護手続きを支援するグループが現れたりという動きも、新聞などでよく報道されるようになった。こうした動きを見ると、まさに生きるということが、他者との支え合いによって成り立っているんだということも実感させられる。

「働くこと」とは朝必要な時刻に起きるということと同じような自然なことであるという著者の意見に共感するが、それと同時に、「働くこと」とは「他者と共に生きる」営みとも言えるのではないかと私は思う。 (505字)